平成 26 年 3 月 14 日

岡山県感染症週報 2014 年 第 10 週（3 月 3 日～3 月 9 日）

【お知らせ】次週、2014 年第 11 週（3/10～3/16）の感染症週報は、3 月 24 日（月）にホームページに掲載いたします。

◎岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です。

◆2014 年　第 10 週（3 / 3～ 3 / 9）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況

第 8 週　2 類感染症　結核　1 名（70 代　女）

第 9 週　2 類感染症　結核　2 名（70 代　男　2 名）

5 類感染症　侵襲性肺炎球菌感染症　1 名（60 代　男）

第 10 週　2 類感染症　結核　5 名（70 代　男　1 名、80 代　男　3 名・女　1 名）

4 類感染症　E 型肝炎　1 名（60 代　男）

レジオネラ症　1 名（60 代　男）

■定点把握感染症発生状況

○インフルエンザは、県全体で 1492 名（定点あたり 23.02 → 17.76 人）の報告があり、前週より減少しました。

○感染性胃腸炎は、県全体で 464 名（定点あたり 7.96 → 8.59 人）の報告があり、横ばいで推移しています。

○咽頭結膜熱は、県全体で 39 名（定点あたり 0.51 → 0.72 人）の報告があり、前週より増加しました。

【 第 11 週　速報 】

○インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 51 施設でありました。（3 月 10 日～12 日）

○岡山市及び里庄町の小学校各 1 校で、感染性胃腸炎による臨時休業がありました。（3 月 12 日）

---

1. インフルエンザは、県全体で 1492 名（定点あたり 23.02 → 17.76 人）の報告があり、前週より減少しました。第 8 週以降わずかに増加傾向となっていましたが、3 週ぶりの減少となりました。県全体の報告数はピークとなった第 5 週と比べると減少したものの、依然として多くの患者が報告されており、岡山県では「インフルエンザ注意報」を発令中です（1 月 16 日発令）。地域別では、倉敷市（25.81 人）、備中地域（21.42 人）、岡山市（21.27 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。インフルエンザによる入院患者は 9 名の報告がありました。インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 74 施設であり、第 11 週も臨時休業施設が多発しています。県内の発生状況など詳しくは、「インフルエンザ情報」をご覧ください。
   全国の第 9 週の発生状況を見ると、定点あたり 28.44 人であり、前週より増加しました。

2. 感染性胃腸炎は、県全体で 464 名（定点あたり 7.96 → 8.59 人）の報告がありました。第 7 週以降横ばいで推移していますが、第 8 週以降はわずかに増加が続いています。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など詳しくは「感染性胃腸炎情報」をご覧ください。

3. 咽頭結膜熱は、県全体で 39 名（定点あたり 0.51 → 0.72 人）の報告がありました。詳しくは、「**今週の注目感染症**」をご覧ください。

春休みに海外へ旅行される方へ

○春休みに海外へ旅行される方に向けた感染症情報が、厚生労働省検疫所のホームページに掲載されました。

海外には、通常日本国内に存在しない感染症があります。海外で感染症にかからないようにするには、出発前にあらかじめ渡航先の感染症に関する情報を入手しておくことが大切です。渡航先では感染に気をつけ、帰国時に体調不良があれば空港の検疫所に相談しましょう。また、帰国時に症状がなくても、その後体調が悪くなったときは、早めに医療機関を受診し、その際は渡航先も伝えましょう。

＊海外で健康に過ごすために（厚生労働省検疫所ホームページ）

☆小学校入学前に麻しん・風しんの予防接種を！

麻しん・風しんの定期予防接種（第２期）の接種期間は、小学校入学前の１年間（４月１日～３月 31 日）となっています。

４月から小学校に入学される方で、まだ接種を済ませていない方は、積極的な接種をご検討ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★★★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★★★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★★
感染性胃腸炎		★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★	百日咳		
ヘルパンギーナ			流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎（ロタウイルス）					

【記号の説明】 前週からの推移:  :2 倍以上の減少  :1.1～2 倍未満の減少  :1.1 未満の増減

 :1.1～2 倍未満の増加  : 2 倍以上の増加

発生状況: 空白：発生なし ★: 僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

感染性胃腸炎（ロタウイルス）については、平成 25 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

今週の注目感染症

咽頭結膜熱

咽頭結膜熱は、主にアデノウイルスに感染することによってみられる発熱、咽頭炎、眼症状を主とする小児の急性ウイルス性感染症です。通常 5～7 日の潜伏期間を経て発熱で発症し、頭痛、食欲不振、全身倦怠感とともに、咽頭炎によるのどの痛み、結膜炎にともなう結膜充血、眼痛、目やにの症状がみられ、症状は 3～5 日程度持続した後、回復します。特異的な治療法はなく、治療は対症療法が中心となります。眼症状が強い場合には、眼科的治療が必要となることもあります。

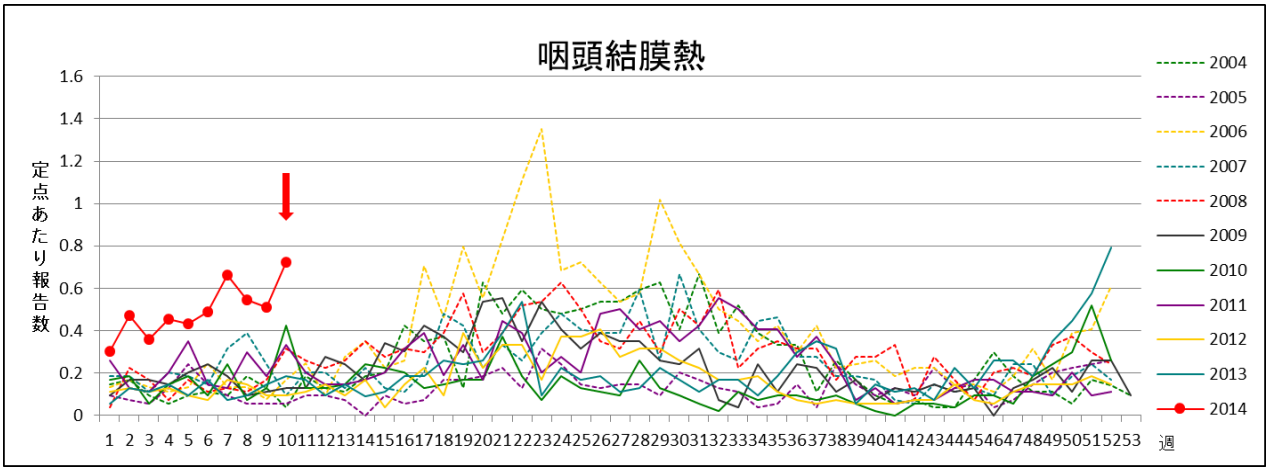
感染経路は主に接触感染、飛沫感染ですが、その感染力は強力で、タオル、ドアノブ、エレベーターのボタン、階段の手すり等の患者が触れたものを介しても感染する場合があります。通常夏季を中心に流行する疾患で、プールでの感染も多く見られることから、プール熱とも呼ばれます。患者の年齢は 5 歳以下が約 6 割を占めています。

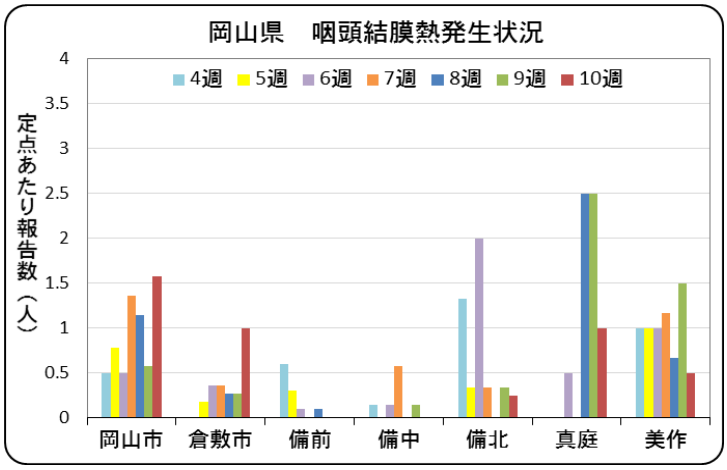
予防法は、感染者との接触を避けること、流行時にうがいや手洗い、手指の消毒を実施することなどです。消毒法として、手指に対しては流水と石けんによる手洗い、器具に対しては煮沸や次亜塩素酸ナトリウムを用います。アデノウイルスに対して、消毒用エタノールの消毒効果は弱いとされています。

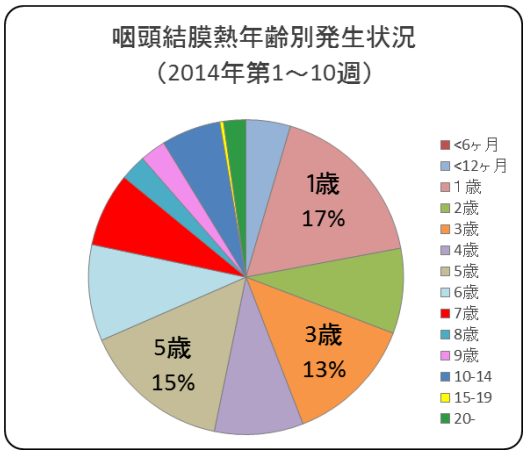
（国立感染症研究所　IDWR 2012 年第 25 週<注目すべき感染症> 咽頭結膜熱）

咽頭結膜熱とは（国立感染症研究所　感染症の話）

【岡山県の発生状況】

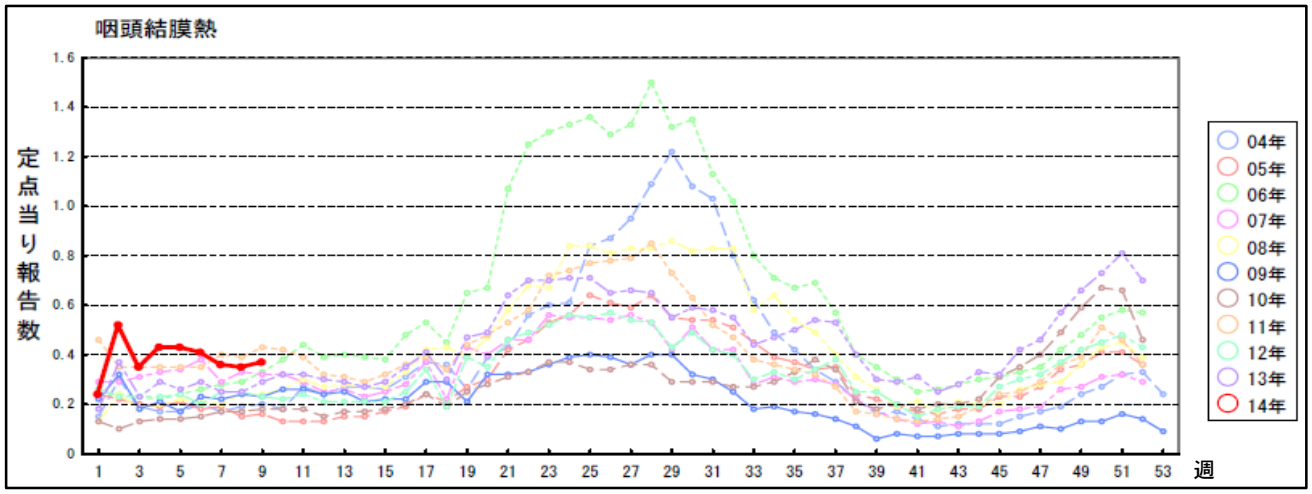






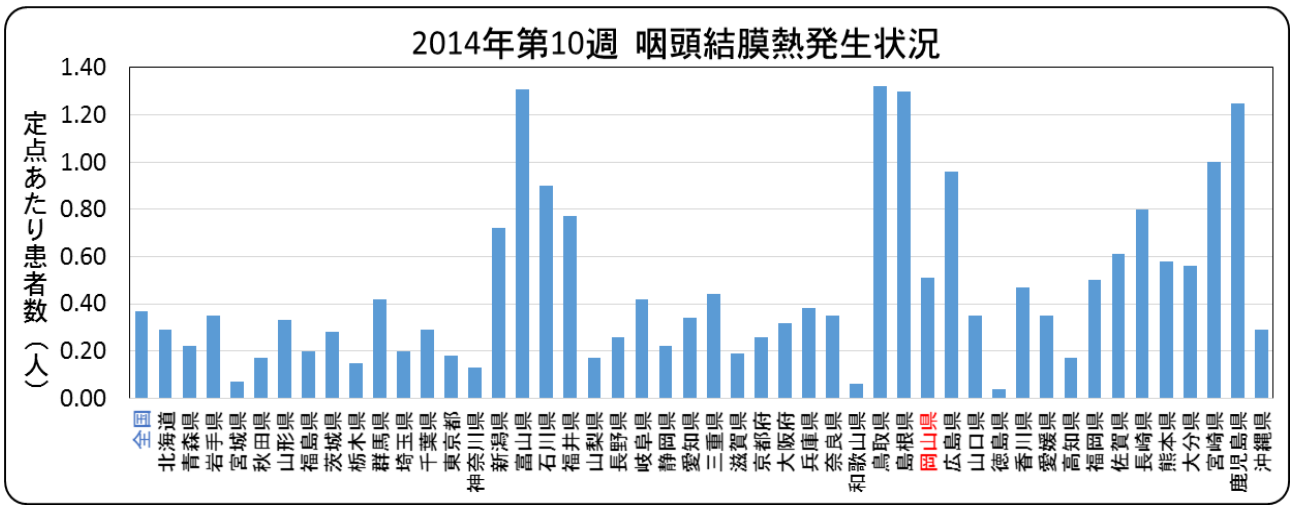
咽頭結膜熱は、第 10 週には県全体で 39 名（定点あたり 0.51 → 0.72 人）の報告がありました。2013 年第 49 週以降、過去 10 年の同時期で最も高い状態で推移しています。咽頭結膜熱は、以前は夏季を中心に流行していましたが、最近では冬季にも報告数の増加が見られています。地域別では、岡山市（1.57 人）、倉敷市及び真庭地域（1.00 人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、岡山市と倉敷市で大きく増加しました。また、先週までの発生状況を見ると、真庭地域、美作地域でも高いレベルで推移しています。2014 年の年齢別累計では、1 歳 17%、5 歳 15%、3 歳 13% の順で多く報告されており、0 歳～5 歳の乳幼児が 68% を占めています。

【全国の発生状況】



全国の第 9 週までの発生状況を見ると、2013 年第 37 週頃から過去 10 年でも高いレベルで推移しており、第 9 週には、過去 5 年の同時期と比較してやや多い状態となっています。

(国立感染症研究所 IDWR 速報データ 2014 年第 9 週)



都道府県別の発生状況を見ると、鳥取県（1.32 人)、富山県（1.31 人)、島根県（1.30 人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。岡山県内の報告数は過去 10 年の同時期と比較して最も多い状態にあり、近隣の県でも定点あたり報告数が多くなっていますので、今後の県内の発生状況に注意するとともに、しっかり手を洗い、患者との接触を避けるなど、感染予防に努めましょう。

平成 26 年 3 月 14 日

インフルエンザ情報　2014 年 第 10 週 （3 月 3 日 ～ 3 月 9 日）

【お知らせ】次週、2014 年第 11 週（3/10～3/16）のインフルエンザ情報は、3 月 24 日（月）にホームページに掲載いたします。

◎岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です。

➢ 岡山県の流行状況

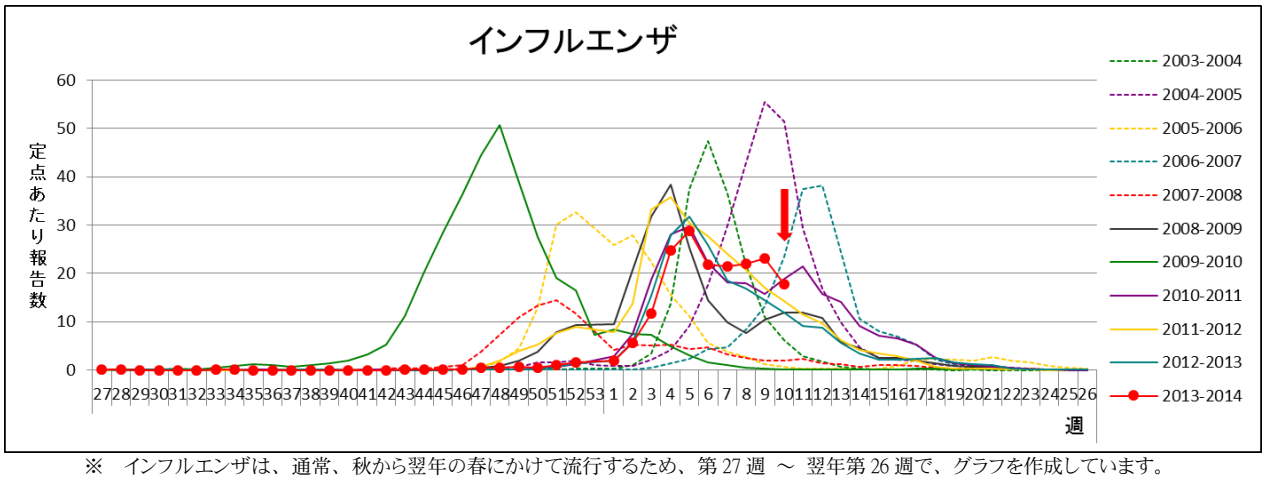
○インフルエンザは、県全体で 1492 名（定点あたり 23.02 → 17.76 人）の発生があり、前週より減少しました。

○インフルエンザによる入院患者 9 名の報告がありました。

○インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 74 施設でありました。

【第 11 週　速報】

○インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 51 施設でありました（3 月 10 日～12 日）。



※　インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ～ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 1492 名（定点あたり 23.02 → 17.76 人）の発生があり、前週より減少しました（84 定点医療機関報告）。第 8 週以降わずかに増加傾向となっていましたが、3 週ぶりの減少となりました。県全体の報告数はピークとなった第 5 週と比べると減少したものの、依然として多くの患者が報告されており、岡山県では「インフルエンザ注意報」を発令中です（1 月 16 日発令）。

地域別では、倉敷市（25.81 人）、備中地域（21.42 人）、岡山市（21.27 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

学校等の臨時休業は 74 施設から報告がありました。第 11 週も臨時休業施設が多発していることから、今後も幼稚園児、小学生、中学生を中心に患者の発生が懸念されます。『外出後や食事前の手洗い・うがいを徹底する。』『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する。』『充分な睡眠をとる。』など、感染予防に努めて下さい。また症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

◆インフルエンザが流行しています。感染予防と拡大防止に努めて下さい。

◎外から帰ったときや、食事前には手洗い・うがいを心がけましょう。
アルコールを含んだ消毒液で手を消毒するのも効果的です。

◎インフルエンザは、インフルエンザにかかった人の咳、くしゃみ、つばなどの飛沫と共に放出されたウイルスを、鼻腔や気管など気道に吸入することによって感染します。
周囲の方々のためにも普段から「咳エチケット」を心がけましょう。

◎可能な限り人混みを避け、マスクを着用しましょう。体の抵抗力を高めるために、十分な休養とバランスのとれた食事を心がけましょう。

インフルエンザ Q&A（厚生労働省）

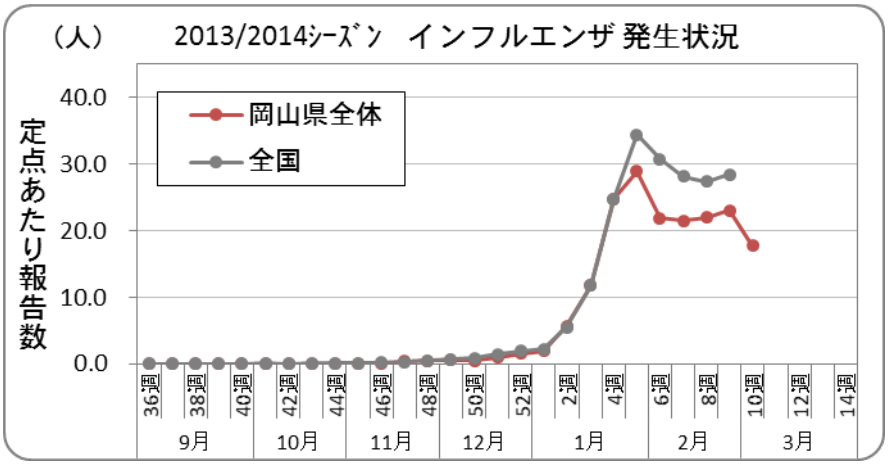
ワクチンは、感染を完全に防ぐことはできませんが、発熱期間の短縮や、重症化を防ぐことには効果があると言われています。

1．地域別発生状況

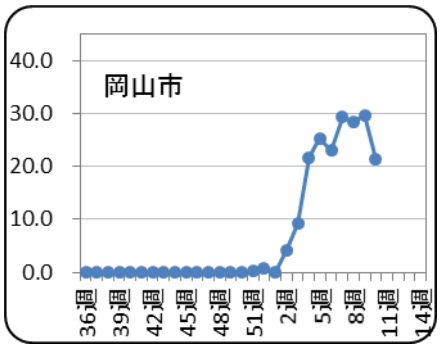
前週からの推移（単位：人）

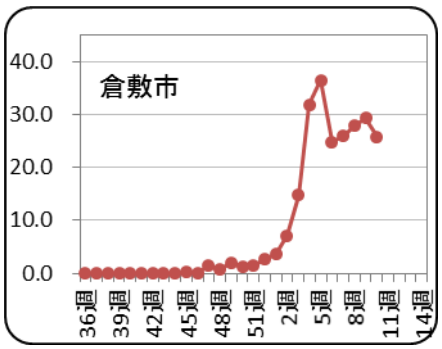
地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	**患 者 数**	**1492**	↓	備　中	患 者 数	257	↓
	定点あたり	**17.76**			定点あたり	21.42	
岡山市	患 者 数	468	↓	備　北	患 者 数	58	↓
	定点あたり	21.27			定点あたり	9.67	
倉敷市	患 者 数	413	↓	真　庭	患 者 数	35	↘
	定点あたり	25.81			定点あたり	11.67	
備　前	患 者 数	190	↓	美　作	患 者 数	71	↓
	定点あたり	12.67			定点あたり	7.10	

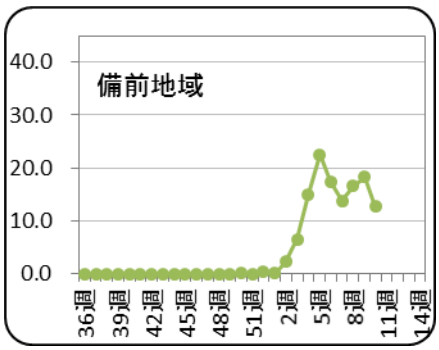
【記号の説明】　前週からの推移：　2倍以上の減少 ↓　1.1～2倍未満の減少 ↘　1.1未満の増減 →
1.1～2倍未満の増加 ↗　2倍以上の増加 ↑

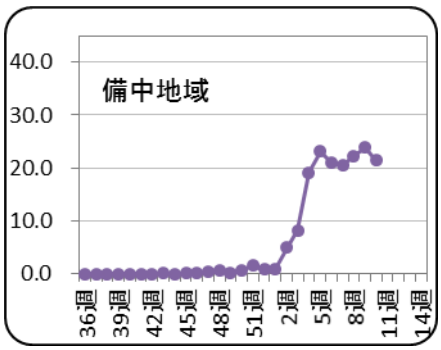


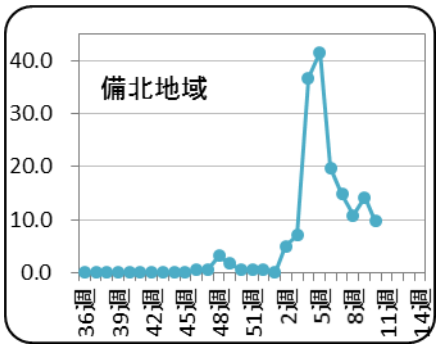
全国集計第９週(2/24～3/2)速報値によると、全国では定点あたり28.44 人で あり、前週より増加しました。地域別では、福井県(51.66 人)、大分県(42.14 人)、福岡県(41.56 人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、34 都府県で前週より増加しました。

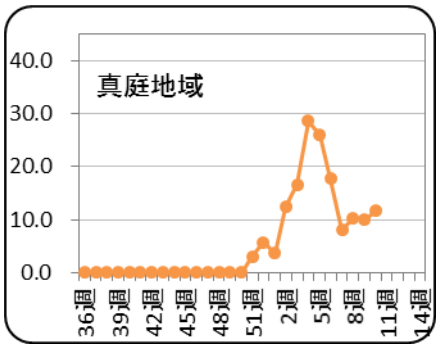


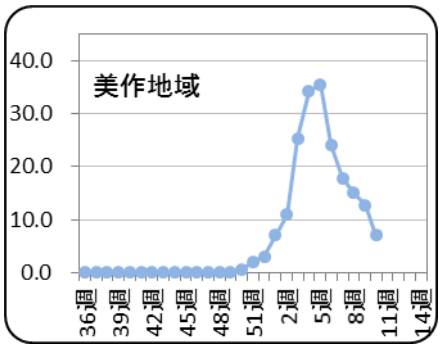






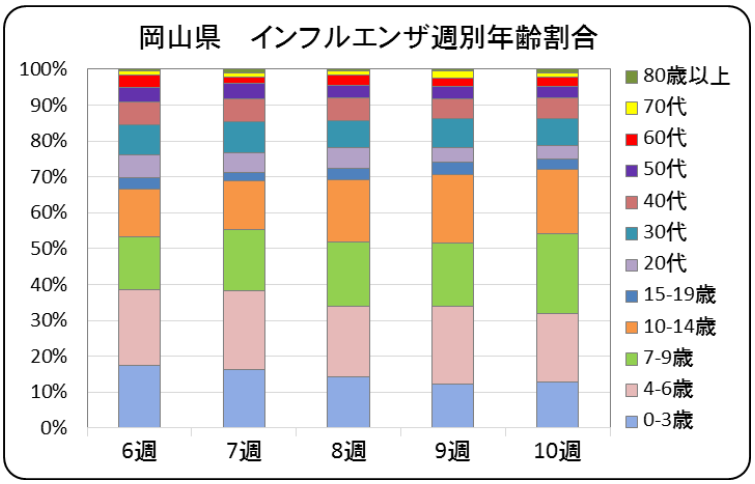


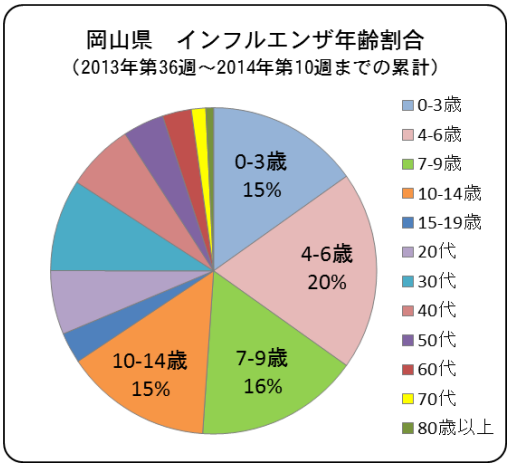




2. 年齢別発生状況

週別の年齢割合を見ると、第 6 週以降、14 歳以下の年齢層の割合に増加傾向が見られています。今シーズン（2013 年 9 月 2 日～）の年齢別累計割合は、4－6 歳 20%、7－9 歳 16%、0－3 歳及び 10－14 歳 15% の順で多くなっています。



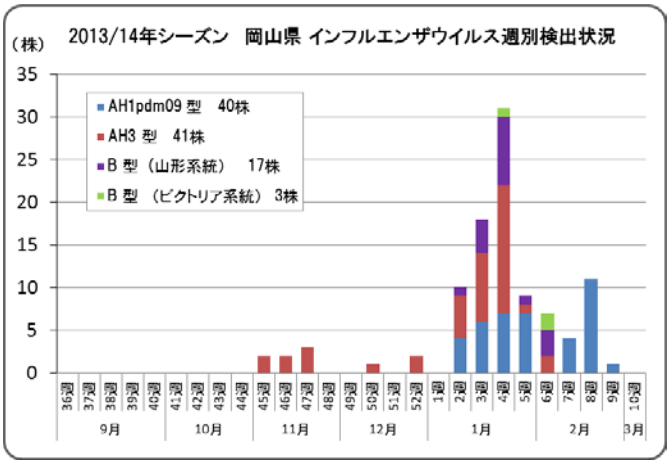


3. インフルエンザウイルス検出状況

第 10 週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、AH3 型が 3 株、AH1pdm09 型が 3 株、B 型（山形系統）が 2 株、B 型（ビクトリア系統）が 2 株でした。今シーズンでこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3 型が 41 株（40%）、AH1pdm09 型が 40 株（40%）、B 型が 20 株（20%）となっています。

・（岡山県　インフルエンザウイルス分離・検出状況）

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09 型 47%、B 型 27%、AH3 型 26% の順に多く検出されています。1 月以降は AH1pdm09 型の検出割合が増加しています。



AH1pdm09 型のインフルエンザウイルスは、4 年前の 2009 / 2010 年シーズンに新型インフルエンザとして大流行し、その年に検出されたウイルスの 98% が AH1pdm09 型となりました。その後、2011 年 4 月以降は通常の季節性インフルエンザの扱いとなり、つづく 2 シーズンは低い検出率（0.2～2.4%）でしたが、今シーズンは 3 年ぶりに検出率が高くなっています。（平成 26 年 3 月 13 日現在）

・（インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所））

【第10週判明分】

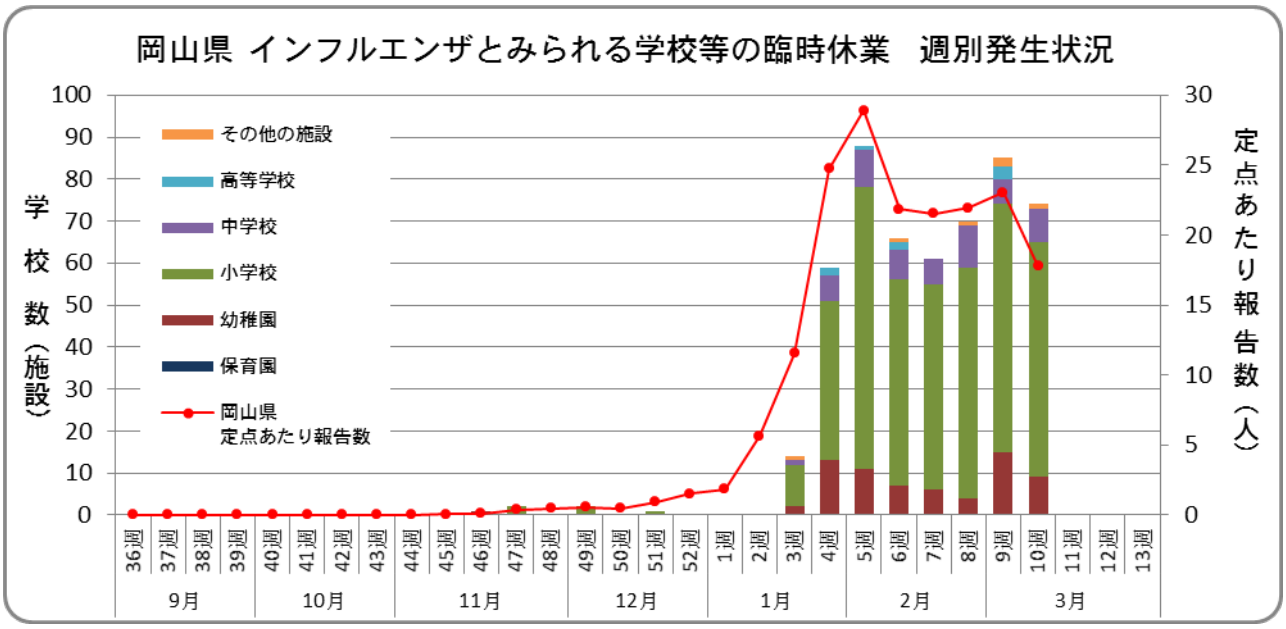
ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2014年第 5週(1/27～ 2/2)	2014/1/29	備中	小学生	女	
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2014年第 5週(1/27～ 2/2)	2014/1/29	備中	幼児	男	
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第 5週(1/27～ 2/2)	2014/2/1	備中	中学生	男	
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第 6週(2/3～ 2/9)	2014/2/3	備中	中学生	男	
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第 6週(2/3～ 2/9)	2014/2/4	備中	中学生	男	
インフルエンザウイルスB型	2014年第 6週(2/3～ 2/9)	2014/2/4	備中	小学生	男	ビクトリア系統
インフルエンザウイルスB型	2014年第 6週(2/3～ 2/9)	2014/2/4	備中	小学生	女	ビクトリア系統
インフルエンザウイルスB型	2014年第 6週(2/3～ 2/9)	2014/2/6	備中	幼児	男	山形系統
インフルエンザウイルスB型	2014年第 6週(2/3～ 2/9)	2014/2/6	備中	小学生	男	山形系統
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2014年第 9週(2/24～3/2)	2014/2/27	倉敷市	小学生	男	

4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 74 施設でありました。

【第 10 週　臨時休業施設数】

▽岡山市 34　▽倉敷市 14　▽玉野市 4　▽吉備中央町 2　▽和気町 1　▽備前市 1　▽瀬戸内市 1
▽総社市 5　▽矢掛町 5　▽浅口市 3　▽笠岡市 1　▽早島町 1　▽真庭市 1　▽久米南町 1



1）有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名＊	有症者数		うち 欠席者数		施設数合計		休園・ 休校数		学年閉鎖 施設数		学級閉鎖 施設数		初発 年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	**980**	**7720**	**754**	**5842**	**74**	**523**	**1**	**13**	**18**	**139**	**55**	**371**	**H25. 11. 13**
岡山市	513	3444	383	2487	34	202	1	3	3	30	30	169	H26. 1. 14
倉敷市	196	1247	158	1000	14	91	0	1	2	18	12	72	H25. 11. 18
備前地域	92	628	72	500	9	54	0	0	5	27	4	27	H26. 1. 16
備中地域	152	938	123	713	15	70	0	0	6	18	9	52	H25. 11. 13
備北地域	0	115	0	98	0	12	0	2	0	5	0	5	H26. 1. 23
真庭地域	7	75	7	62	1	9	0	0	1	8	0	1	H26. 1. 27
美作地域	20	1273	11	982	1	85	0	7	1	33	0	45	H25. 12. 20

＊地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2）臨時休業施設数の内訳

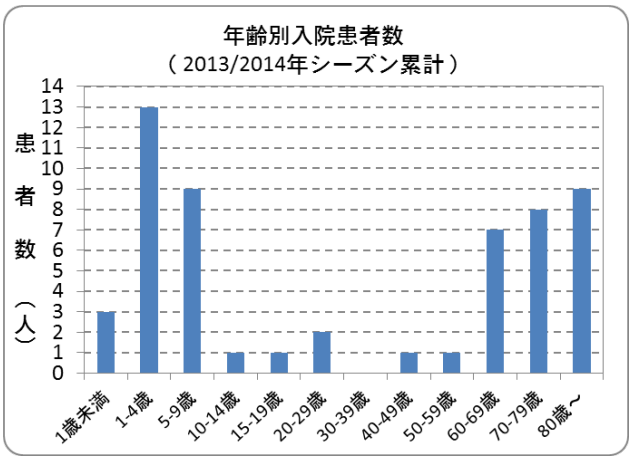
第 10 週：74 施設　　累計：523 施設

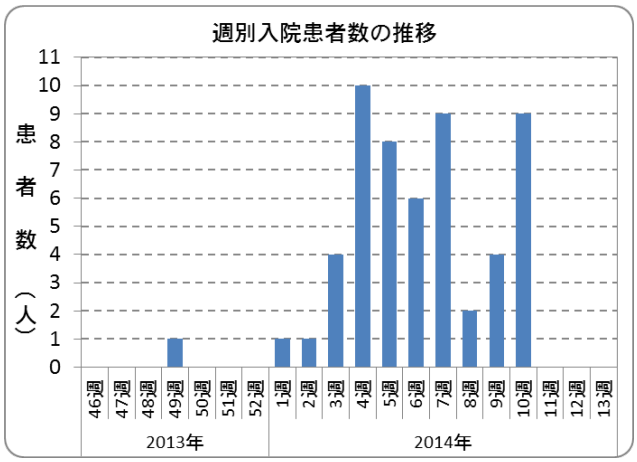
	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	－	－	**9**	**68**	**56**	**388**	**8**	**53**	**0**	**8**	**1**	**6**

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、9 名（20 代　1 名、40 代　1 名、70 代　3 名、80 歳以上　4 名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。





【第 10 週 入院患者報告数】

年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計＊
入院患者数						1		1			3	4	9
ICU 入室													
人工呼吸器の利用											2		2
頭部 CT 検査(予定含)													
頭部 MRI 検査(予定含)												1	1
脳波検査（予定含）													
いずれにも該当せず						1		1			1	3	6

＊重複あり

【平成 25 年 9 月 2 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計＊
入院患者数	3	13	9	1	1	2		1	1	7	8	9	55
ICU 入室		1							1				2
人工呼吸器の利用		1									2		3
頭部 CT 検査(予定含)		3	1						1		1		6
頭部 MRI 検査(予定含)	1	2	2						1		1	1	8
脳波検査（予定含）	1	2	2										5
いずれにも該当せず	2	9	6	1	1	2		1		7	5	8	42

＊重複あり

平成 26 年 3 月 14 日

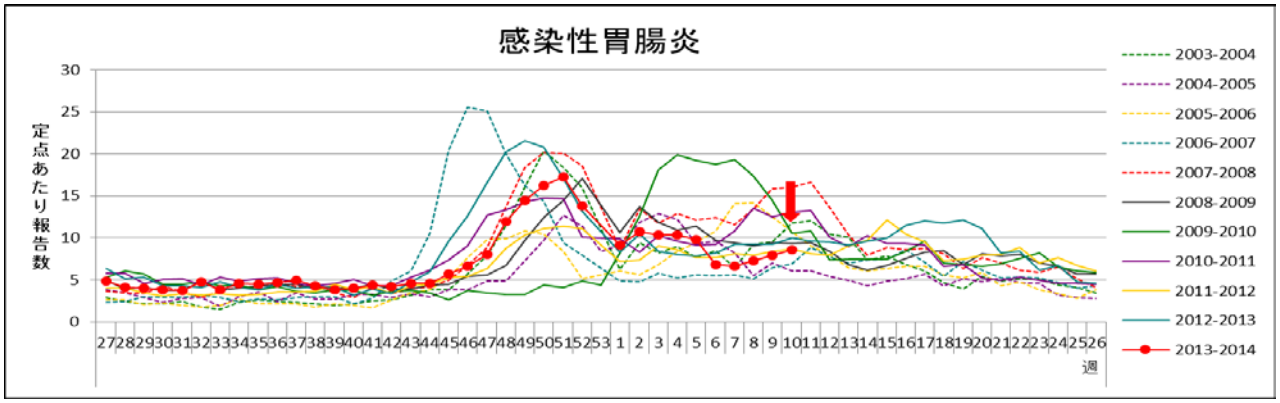
感染性胃腸炎情報　2014 年　第 10 週　（3 月 3 日 ～ 3 月 9 日）

【お知らせ】次週、2014 年第 11 週（3/10～3/16）の感染性胃腸炎情報は、3 月 24 日（月）にホームページに掲載いたします。

○感染性胃腸炎は、県全体で 464 名（定点あたり 7.96 → 8.59 人）の発生がありました（54 定点医療機関報告）。

【第 11 週　速報】

○岡山市及び里庄町の小学校各 1 校で、感染性胃腸炎による臨時休業がありました。（3 月 12 日）



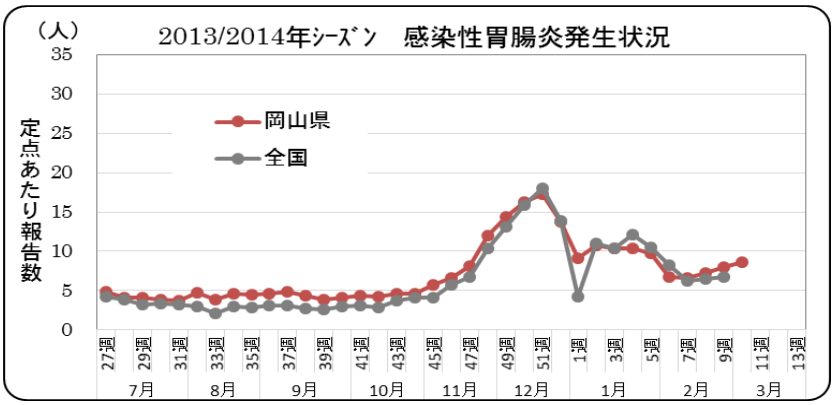
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

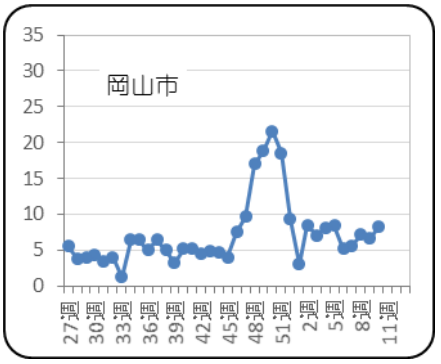
感染性胃腸炎は、県全体で 464 名（定点あたり 7.96 → 8.59 人）の発生がありました。第 7 週以降横ばいで推移していますが、第 8 週以降はわずかに増加が続いています。冬の感染性胃腸炎の原因はノロウイルスやロタウイルス等のウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。第 11 週には学校の臨時休業も報告されていますので、学校や福祉施設、病院などでは、手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

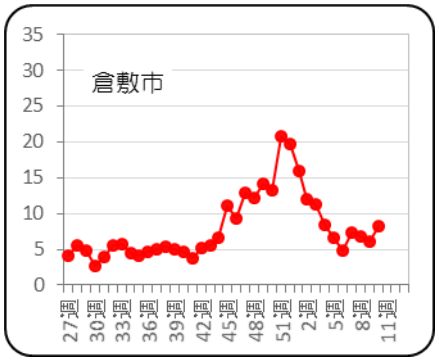
○ノロウイルスに関する Q&A（厚生労働省）

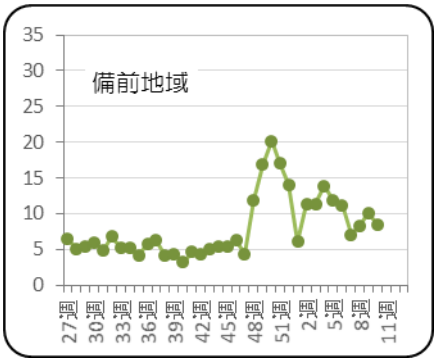
○ロタウイルスに関する Q&A（厚生労働省）

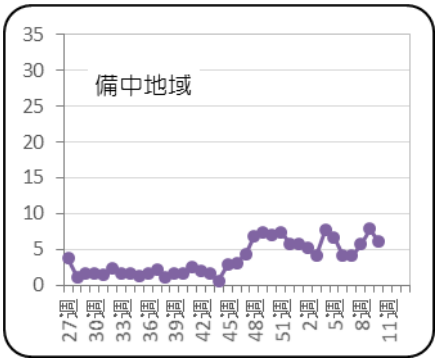
◆地域別・年齢別発生状況

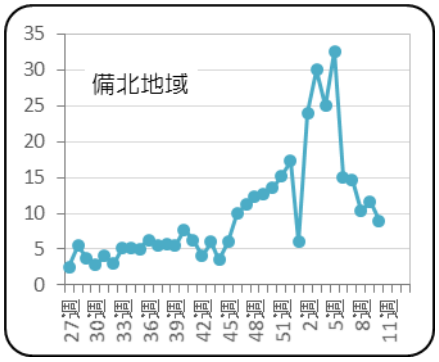


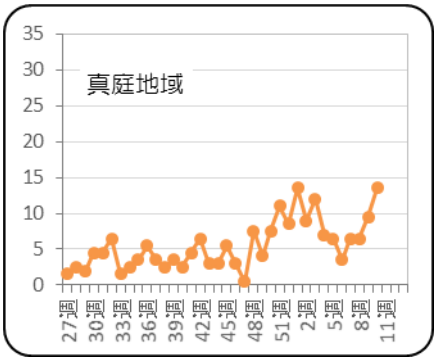


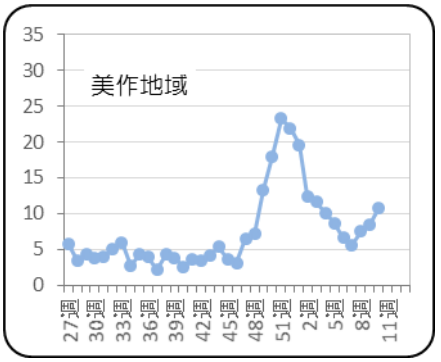


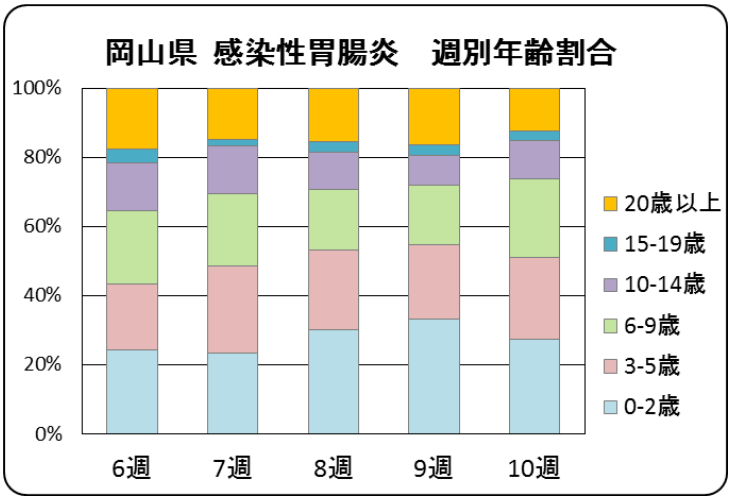


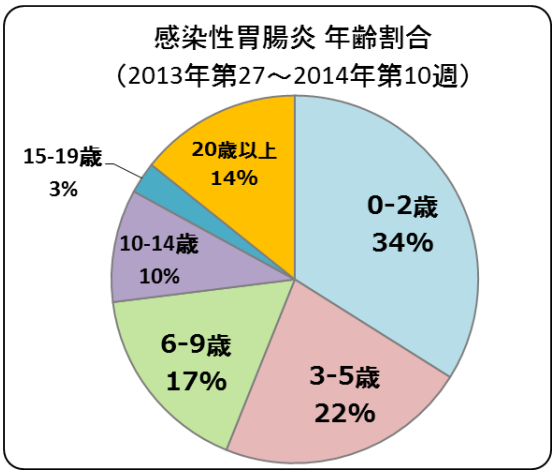












地域別では、真庭地域（13.50 人）、美作地域（10.83 人）、備北地域（9.00 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。真庭地域、美作地域などで、7～8 週頃から増加が続いていますので、今後の発生状況に注意してください。週別年齢割合を見ると、第 6 週以降、乳幼児の年齢層の割合が増加傾向となっています。

例年 3～5 月には、0～2 歳の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎が増加するとされています。主な症状は嘔吐と下痢で、ノロウイルスによる胃腸炎に比べ重症度が高いといわれています。嘔吐や下痢により脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

◎感染性胃腸炎が多く発生しています。

石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。患者の嘔吐物や下痢便を処理する際には、自分が感染しないように、使い捨ての上着やマスク、手袋を着用しましょう。また、塩素系漂白剤などを使った消毒も併せて行いましょう。

通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

保健所別報告患者数　2014年 10週　（2014/03/03～2014/03/09）

2014年3月13日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1492	17.76	468	21.27	413	25.81	190	12.67	257	21.42	58	9.67	35	11.67	71	7.10
RSウイルス感染症	8	0.15	2	0.14	1	0.09	–	–	2	0.29	3	0.75	–	–	–	–
咽頭結膜熱	39	0.72	22	1.57	11	1.00	–	–	–	–	1	0.25	2	1.00	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	72	1.33	36	2.57	13	1.18	5	0.50	–	–	3	0.75	7	3.50	8	1.33
感染性胃腸炎	464	8.59	117	8.36	91	8.27	85	8.50	43	6.14	36	9.00	27	13.50	65	10.83
水痘	40	0.74	4	0.29	10	0.91	1	0.10	10	1.43	–	–	7	3.50	8	1.33
手足口病	1	0.02	1	0.07	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
伝染性紅斑	3	0.06	–	–	1	0.09	–	–	–	–	2	0.50	–	–	–	–
突発性発疹	15	0.28	5	0.36	6	0.55	3	0.30	1	0.14	–	–	–	–	–	–
百日咳	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ヘルパンギーナ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
流行性耳下腺炎	2	0.04	–	–	1	0.09	–	–	–	–	–	–	–	–	1	0.17
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–					–	–
流行性角結膜炎	7	0.58	5	1.00	1	0.25	1	1.00	–	–					–	–
細菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	2	0.40	–	–	1	1.00					1	1.00	–	–	–	–
クラミジア肺炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–

（－：　0　or　0.00）　　（空白：定点なし）

保健所別報告患者数　2014年 10週　　（ 2014/03/03～2014/03/09 ）　　2014年3月13日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1492	17.76	468	21.27	413	25.81	190	12.67	257	21.42	58	9.67	35	11.67	71	7.10
咽頭結膜熱	39	0.72	22	1.57	11	1.00	–	–	–	–	1	0.25	2	1.00	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	72	1.33	36	2.57	13	1.18	5	0.50	–	–	3	0.75	7	3.50	8	1.33
感染性胃腸炎	464	8.59	117	8.36	91	8.27	85	8.50	43	6.14	36	9.00	27	13.50	65	10.83
水痘	40	0.74	4	0.29	10	0.91	1	0.10	10	1.43	–	–	7	3.50	8	1.33
手足口病	1	0.02	1	0.07	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
伝染性紅斑	3	0.06	–	–	1	0.09	–	–	–	–	2	0.50	–	–	–	–
百日咳	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ヘルパンギーナ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
流行性耳下腺炎	2	0.04	–	–	1	0.09	–	–	–	–	–	–	–	–	1	0.17
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–					–	–
流行性角結膜炎	7	0.58	5	1.00	1	0.25	1	1.00	–	–					–	–

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル３
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル２　　を示しています。

（ － :　0　or　0.00 ）　　（ 空白 : 定点なし ）

感染症発生動向調査　週情報　　報告患者数　年齢別　　（ 2014年　第10週　 2014/03/03～2014/03/09 ）

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	1492	5	11	47	57	71	65	104	117	130	93	109	267	44	56	110	89	44	40	17	16

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	8	1	4	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	39	-	1	8	5	3	3	6	2	2	2	1	4	-	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	72	-	-	-	4	6	7	16	10	6	8	7	5	1	2
感染性胃腸炎	464	9	18	57	43	36	39	35	37	26	22	20	52	13	57
水痘	40	-	1	7	8	6	5	3	3	4	3	-	-	-	-
手足口病	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	3	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2	-	-
突発性発疹	15	1	4	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	2	2	-

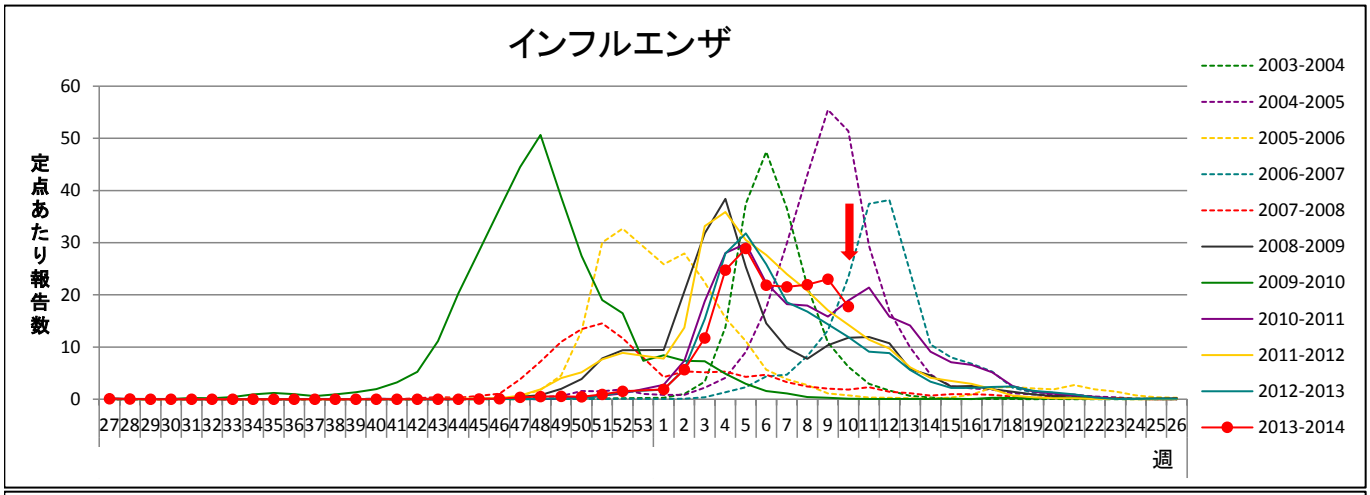
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

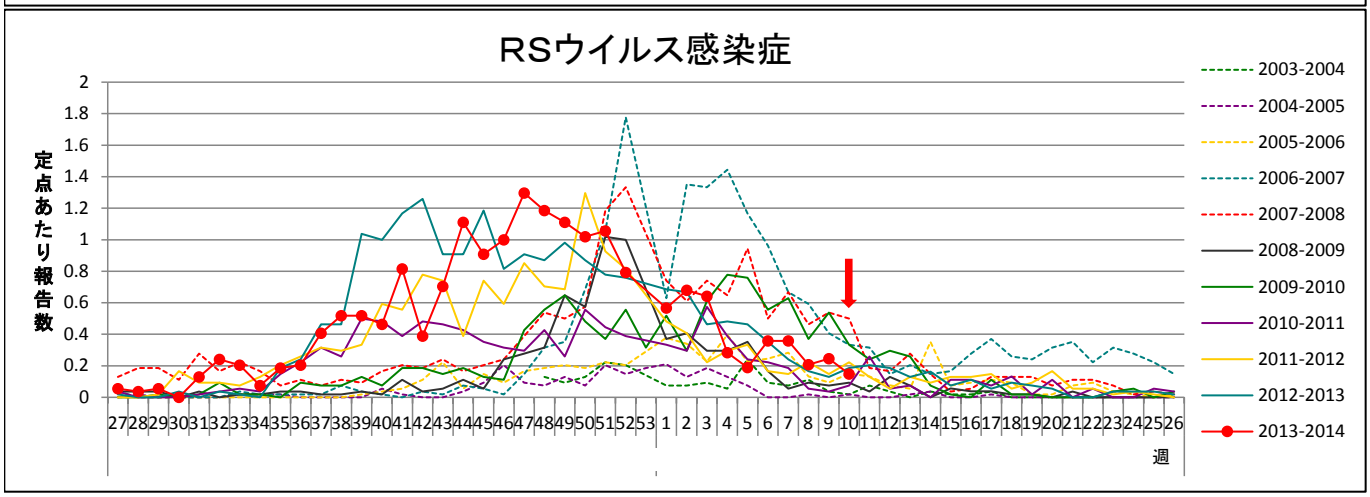
（－： 0 ）

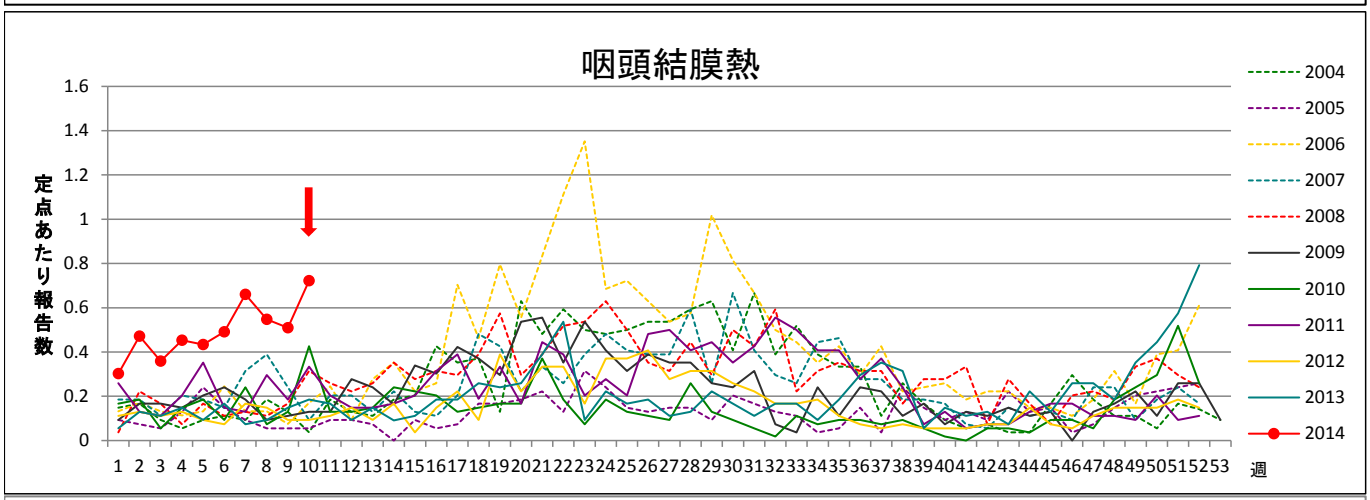
全数把握 感染症患者発生状況

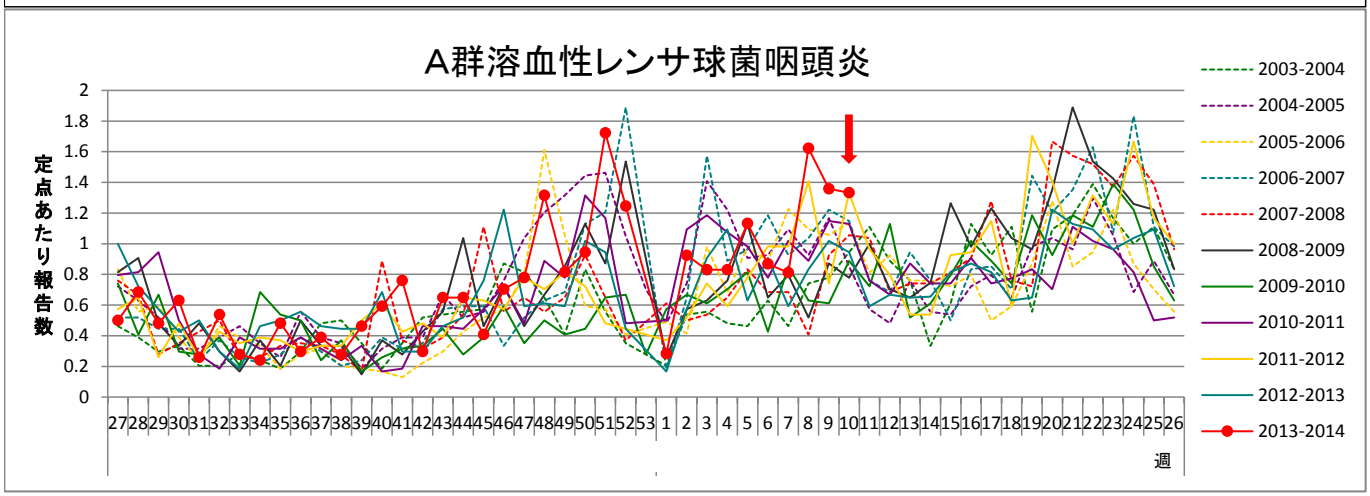
2014 年 10 週

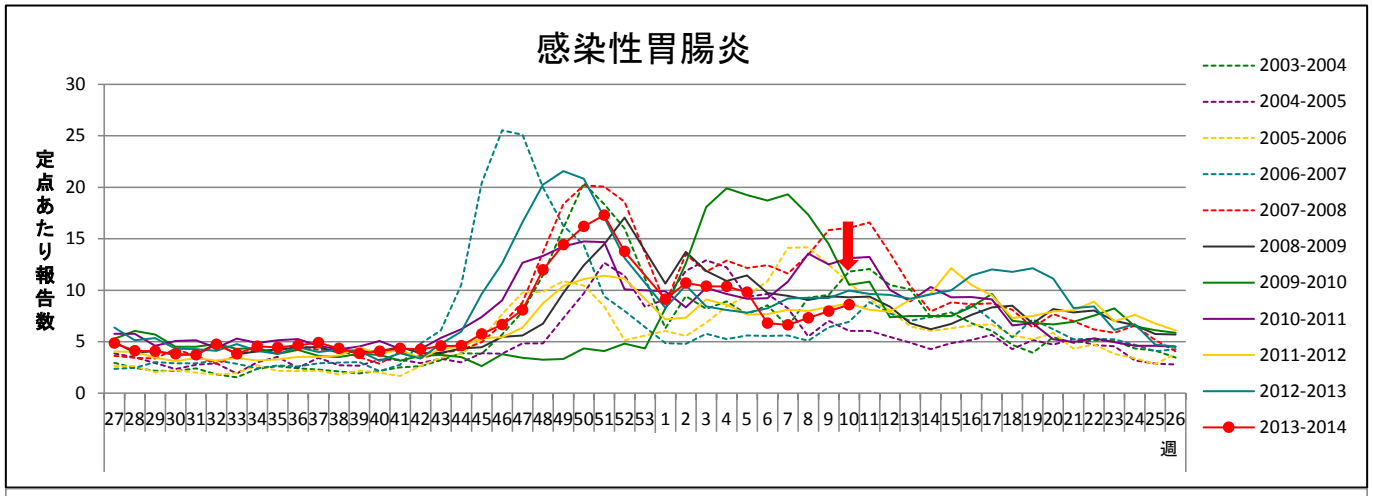
分類	疾病名	2014 今週	2014 累計	2013 昨年	疾病名	2014 今週	2014 累計	2013 昨年	疾病名	2014 今週	2014 累計	2013 昨年
一類	エボラ出血熱	–	–	–	クリミア・コンゴ出血熱	–	–	–	痘そう	–	–	–
	南米出血熱	–	–	–	ペスト	–	–	–	マールブルグ病	–	–	–
	ラッサ熱	–	–	–		–	–	–		–	–	–
二類	急性灰白髄炎	–	–	–	結核	5	57	358	ジフテリア	–	–	–
	重症急性呼吸器症候群	–	–	–	鳥インフルエンザ（H5N1）	–	–	–		–	–	–
三類	コレラ	–	–	–	細菌性赤痢	–	–	–	腸管出血性大腸菌感染症	–	2	87
	腸チフス	–	–	1	パラチフス	–	–	–		–	–	–
四類	E型肝炎	1	1	–	ウエストナイル熱	–	–	–	A型肝炎	–	1	5
	エキノコックス症	–	–	–	黄熱	–	–	–	オウム病	–	–	–
	オムスク出血熱	–	–	–	回帰熱	–	–	–	キャサヌル森林病	–	–	–
	Q熱	–	–	–	狂犬病	–	–	–	コクシジオイデス症	–	–	–
	サル痘	–	–	–	重症熱性血小板減少症候群	–	–	2	腎症候性出血熱	–	–	–
	西部ウマ脳炎	–	–	–	ダニ媒介脳炎	–	–	–	炭疽	–	–	–
	チクングニア熱	–	–	–	つつが虫病	–	–	–	デング熱	–	–	–
	東部ウマ脳炎	–	–	–	鳥インフルエンザ	–	–	–	ニパウイルス感染症	–	–	–
	日本脳炎	–	–	1	日本紅斑熱	–	–	2	ハンタウイルス肺症候群	–	–	–
	Bウイルス病	–	–	–	鼻疽	–	–	–	ブルセラ症	–	–	–
	ベネズエラウマ脳炎	–	–	–	ヘンドラウイルス感染症	–	–	–	発しんチフス	–	–	–
	ボツリヌス症	–	–	–	マラリア	–	–	1	野兎病	–	–	–
	ライム病	–	–	–	リッサウイルス感染症	–	–	–	リフトバレー熱	–	–	–
	類鼻疽	–	–	–	レジオネラ症	1	7	24	レプトスピラ症	–	–	2
	ロッキー山紅斑熱	–	–	–		–	–	–		–	–	–
五類	アメーバ赤痢	–	1	20	ウイルス性肝炎*3	–	1	13	急性脳炎*4	–	4	5
	クリプトスポリジウム症	–	–	–	クロイツフェルト・ヤコブ病	–	–	4	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	–	1	3
	後天性免疫不全症候群	–	1	18	ジアルジア症	–	–	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	–	–	1
	侵襲性髄膜炎菌感染症	–	–	–	侵襲性肺炎球菌感染症	–	5	20	先天性風しん症候群	–	–	–
	梅毒	–	2	8	破傷風	–	–	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	–	–	–
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	–	–	1	風しん	–	2	76	麻しん	–	2	3

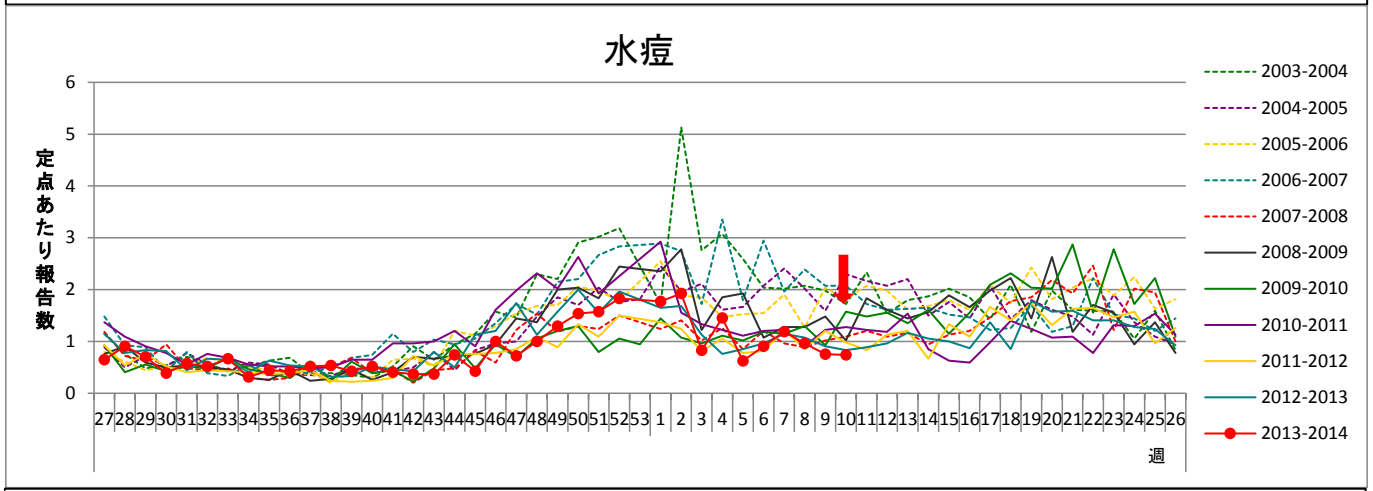

インフルエンザ
定点あたり報告数
週
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014

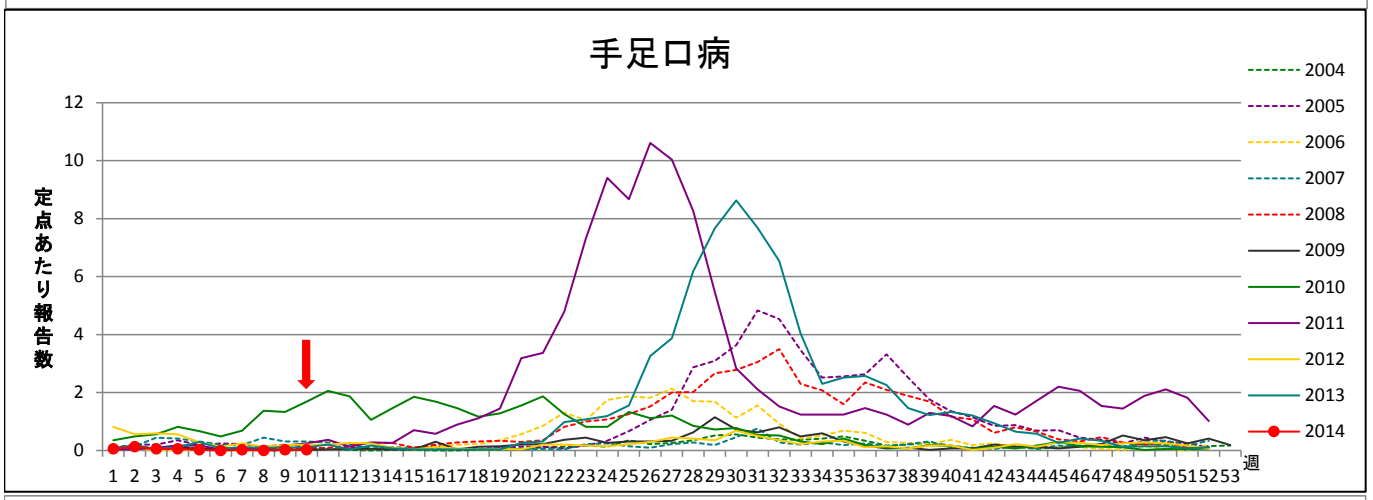

RSウイルス感染症
定点あたり報告数
週
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014

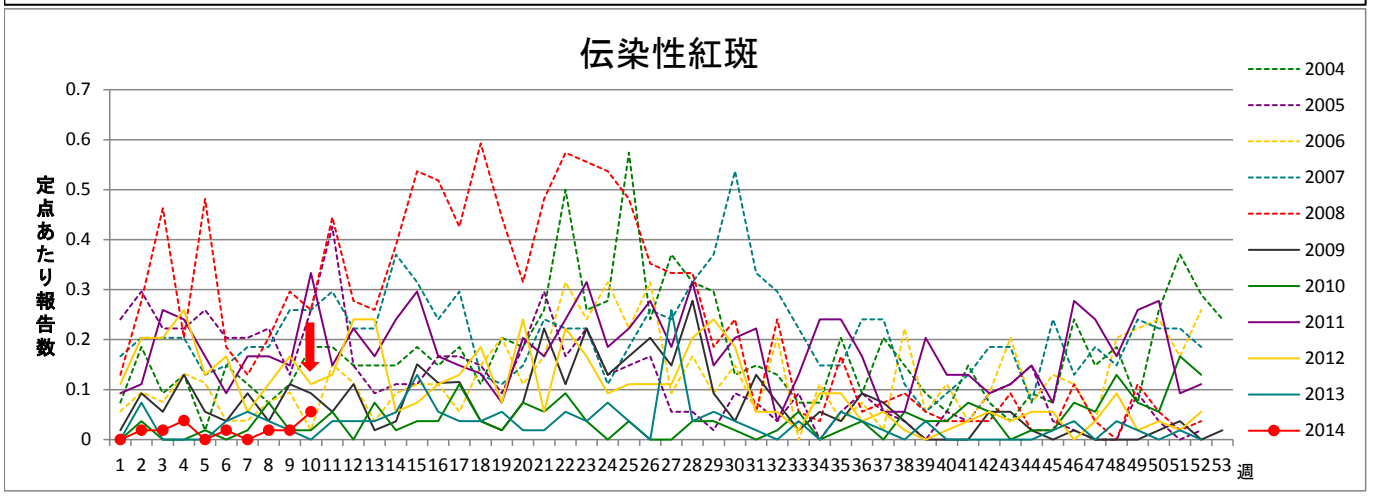

咽頭結膜熱
定点あたり報告数
週
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014

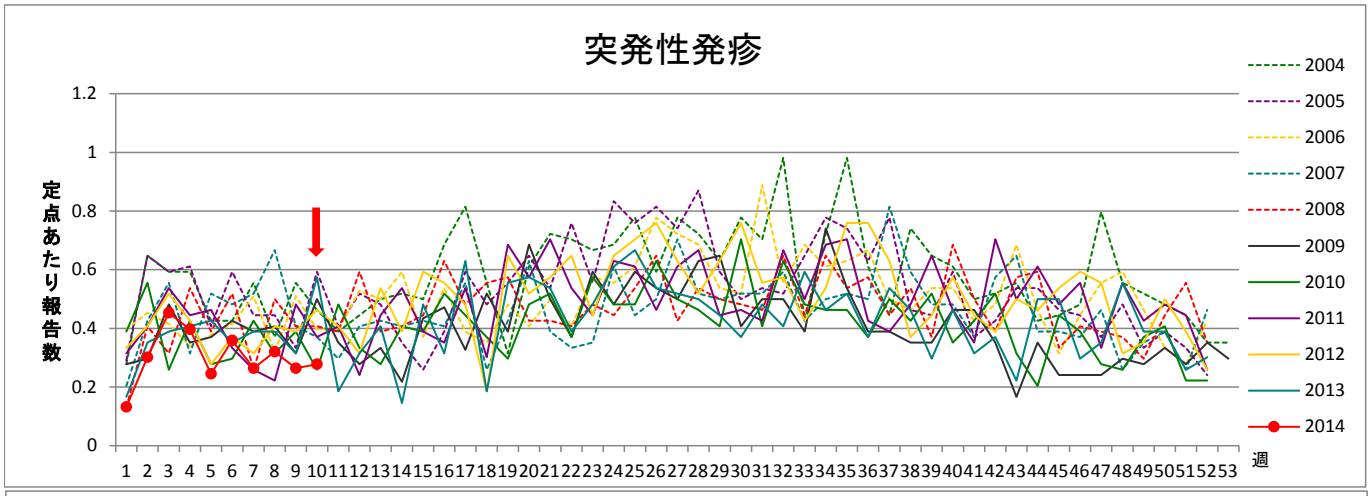

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
定点あたり報告数
週
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014

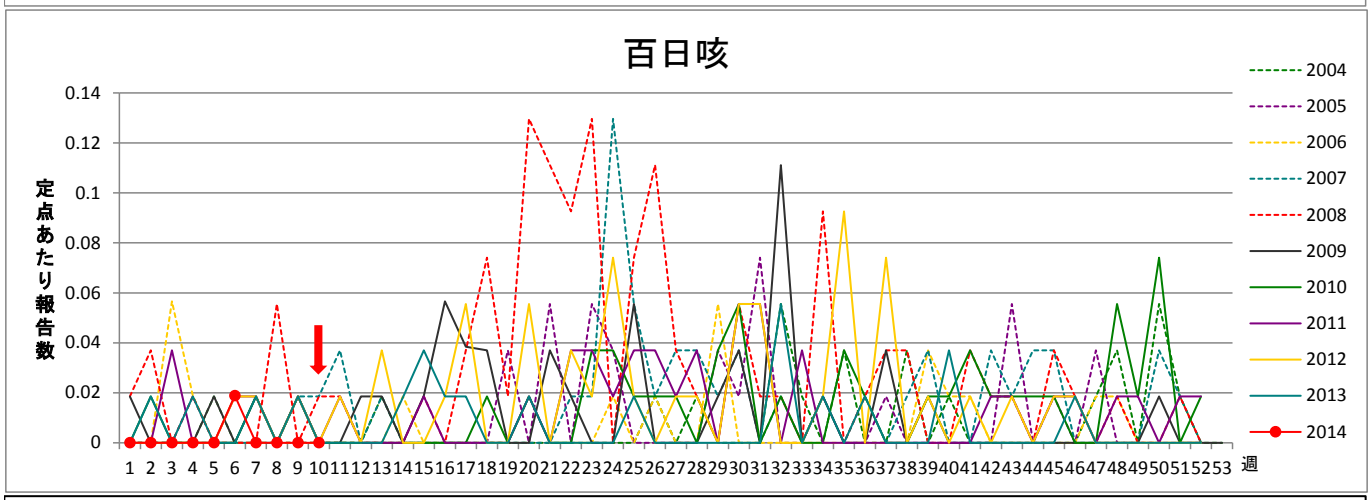

感染性胃腸炎
定点あたり報告数
30
25
20
15
10
5
0
27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26
週
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014

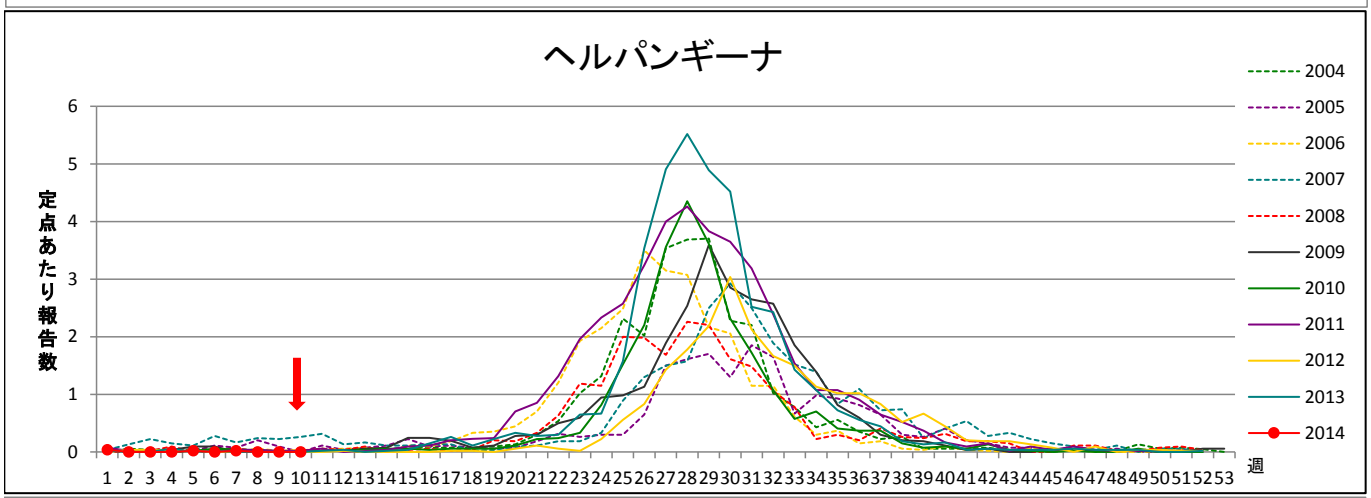

水痘
定点あたり報告数
6
5
4
3
2
1
0
27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26
週
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014

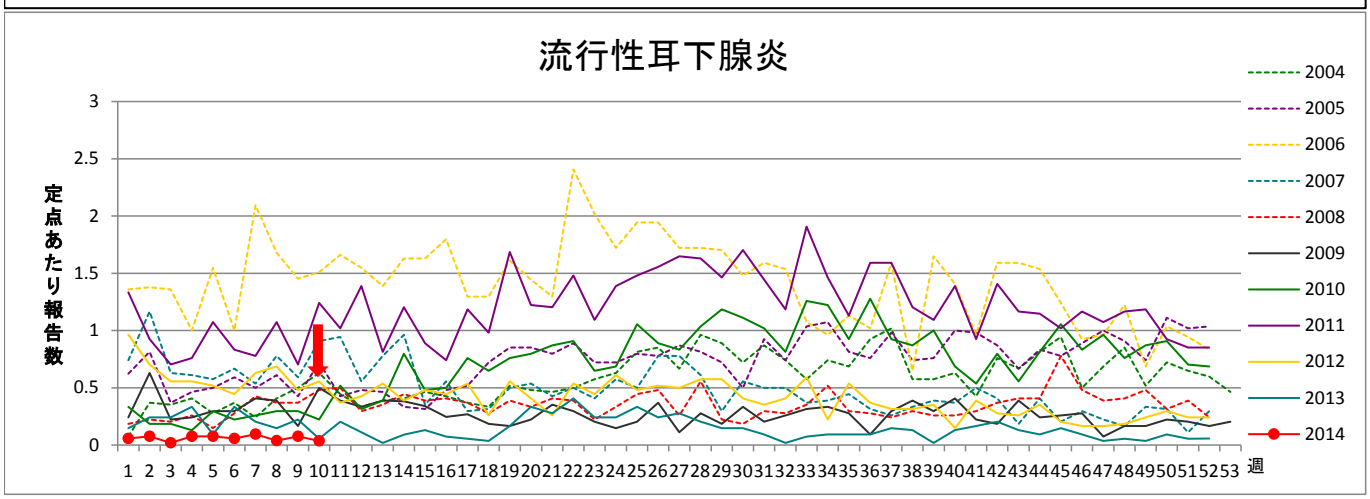

手足口病
定点あたり報告数
12
10
8
6
4
2
0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53
週
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014

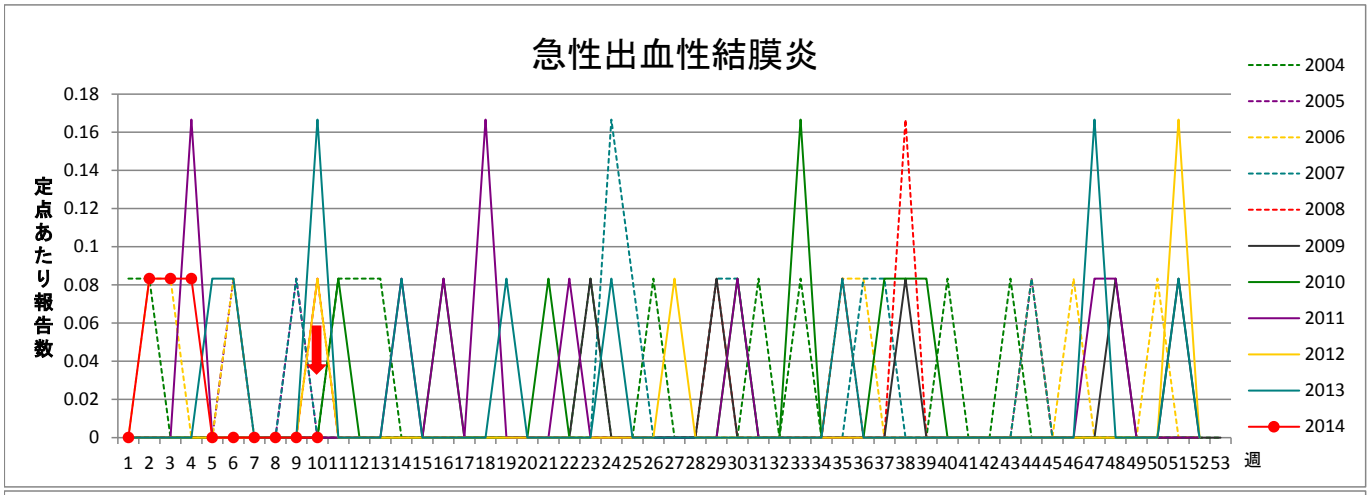

伝染性紅斑
定点あたり報告数
0.7
0.6
0.5
0.4
0.3
0.2
0.1
0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53
週
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014

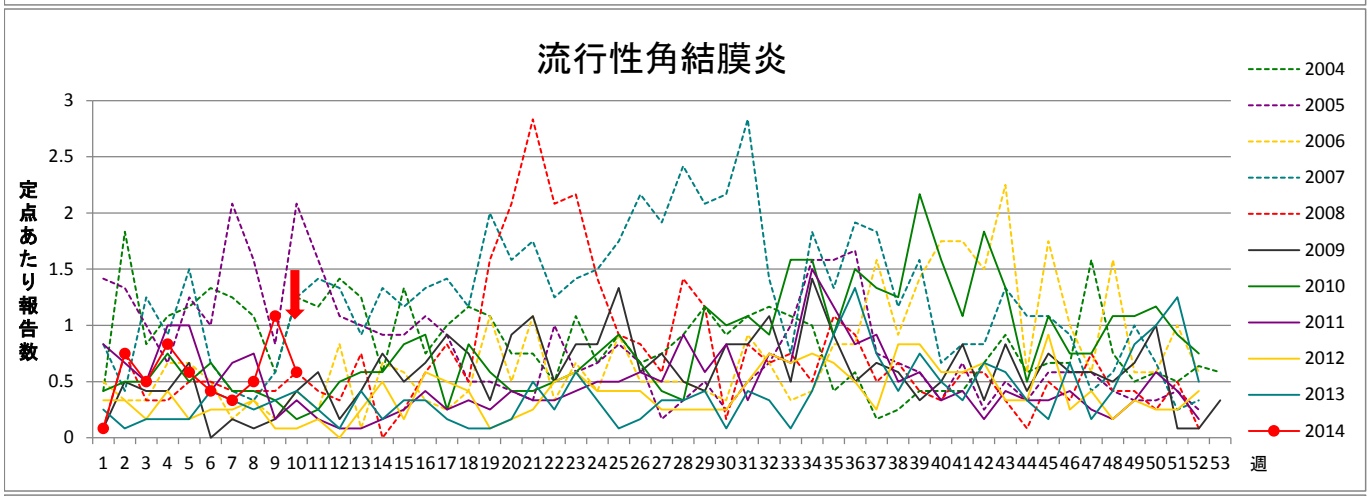

突発性発疹
定点あたり報告数
週
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014

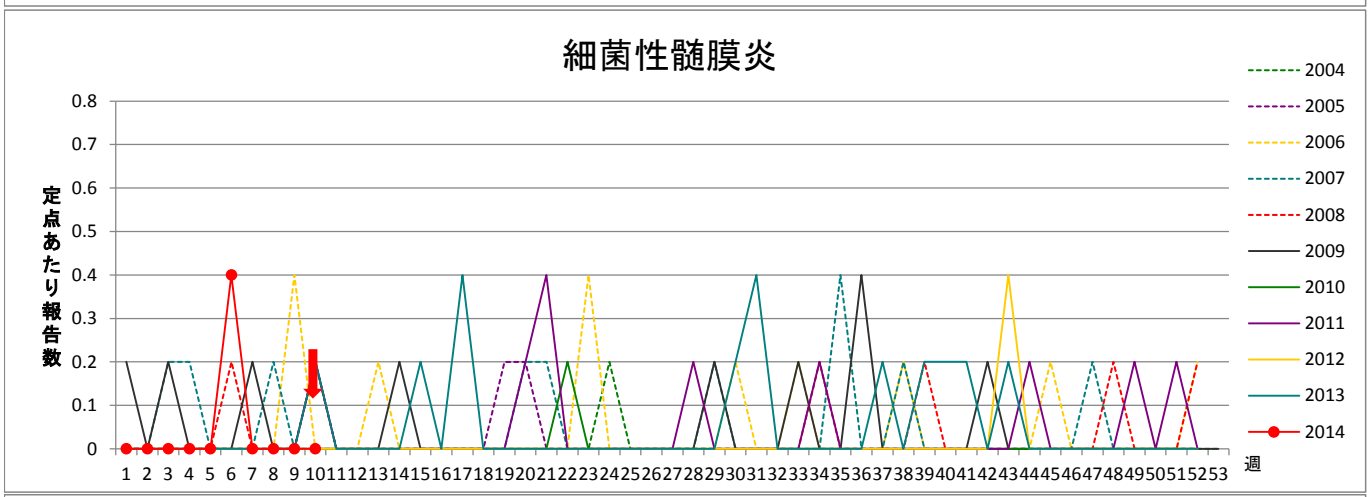

百日咳
定点あたり報告数
週
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014

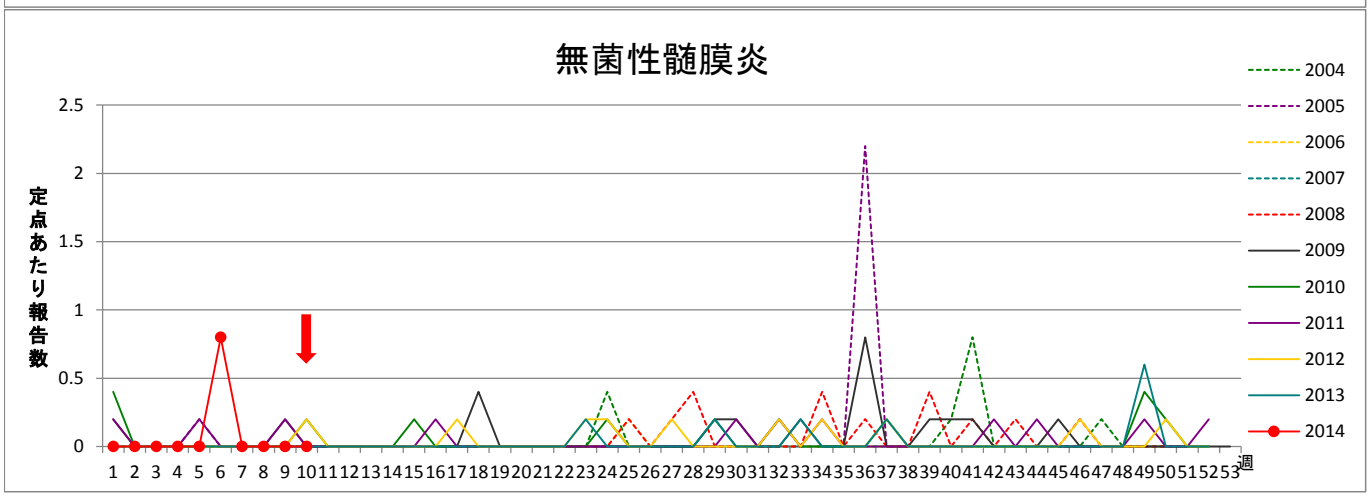

ヘルパンギーナ
定点あたり報告数
週
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014

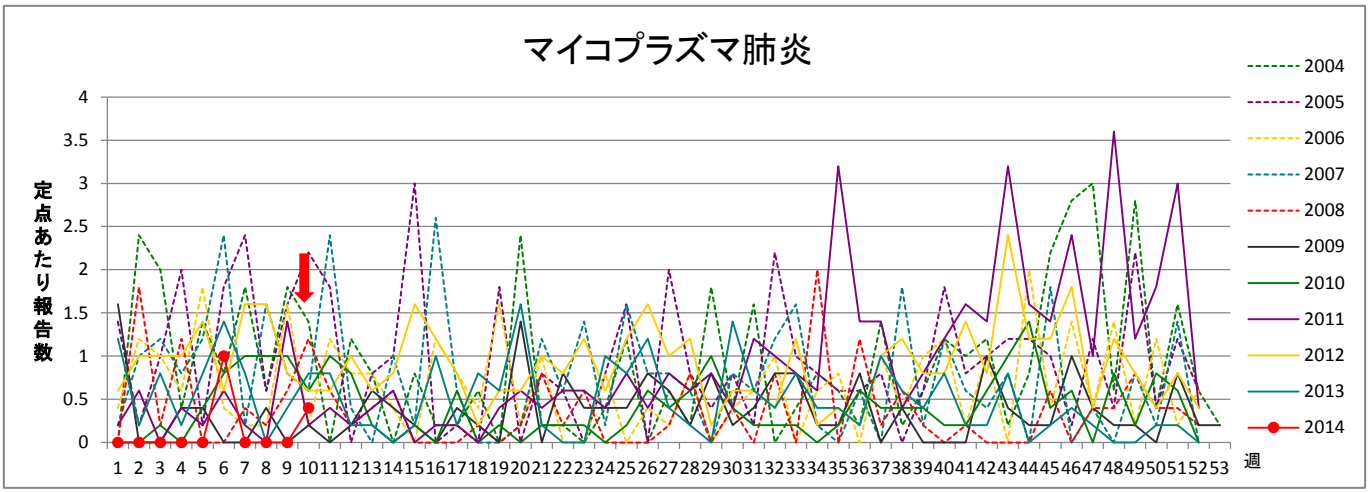

流行性耳下腺炎
定点あたり報告数
週
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014

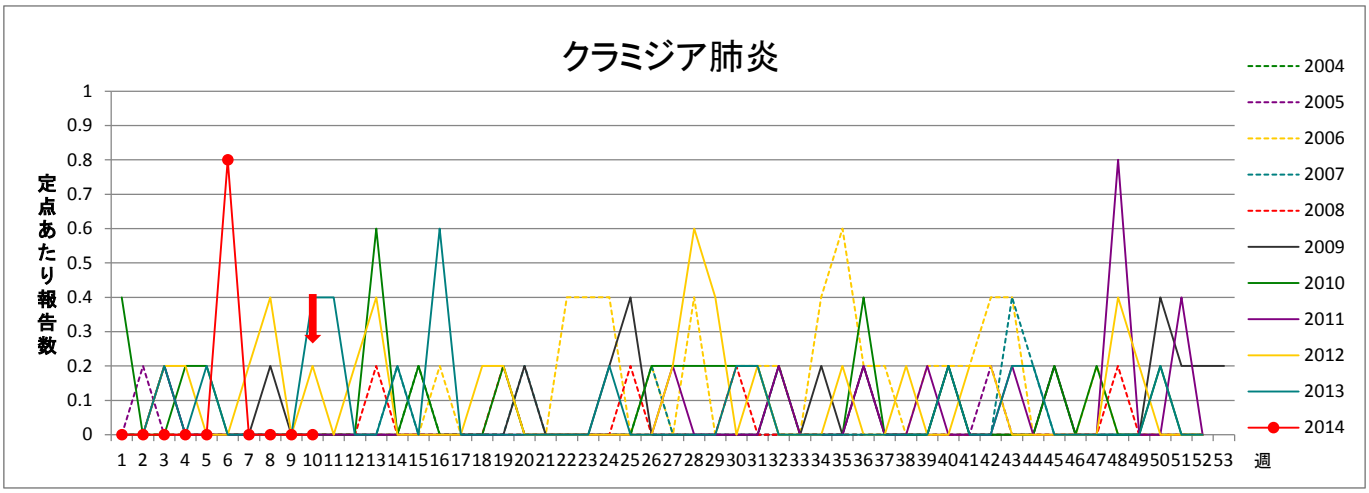

急性出血性結膜炎
定点あたり報告数
0.18
0.16
0.14
0.12
0.1
0.08
0.06
0.04
0.02
0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53
週
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014

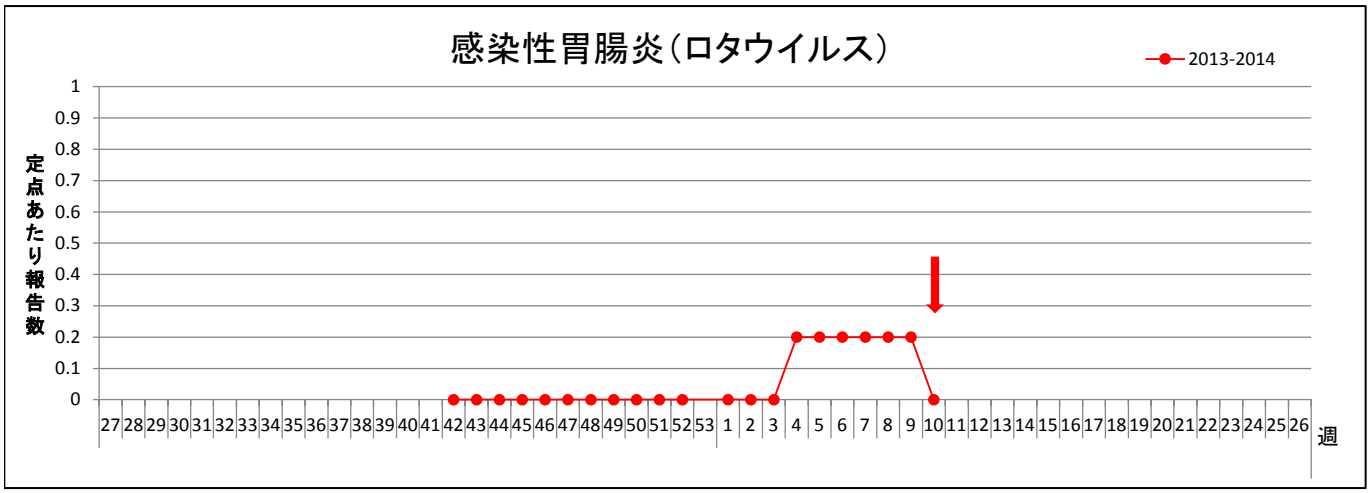

流行性角結膜炎
定点あたり報告数
3
2.5
2
1.5
1
0.5
0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53
週
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014


細菌性髄膜炎
定点あたり報告数
0.8
0.7
0.6
0.5
0.4
0.3
0.2
0.1
0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53
週
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014


無菌性髄膜炎
定点あたり報告数
2.5
2
1.5
1
0.5
0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53
週
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014


マイコプラズマ肺炎
定点あたり報告数
週
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014


クラミジア肺炎
定点あたり報告数
週
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014


感染性胃腸炎（ロタウイルス）
定点あたり報告数
週
2013-2014